

科目名	文化人類学	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群		
			全学科	□必修 ■選択	
英文表記	Cultural Anthropology	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中		
ふりがな	かまだ ゆきお	実務家教員担当科目	修得単位	2単位	
担当者名	鎌田 幸男	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	文化人類学とはどのような学問かを考える。またその研究は具体的にどのような行われるのかを知る。				
到達目標	フィールドワークとはどのようなことか、具体的にその課題と意義と方法を知る。				
授業概要	文化人類学は、世界の諸民族がもつ文化、社会それに経済、宗教など広範囲にわたる学問領域である。本講義では、特に日本民族がもつ伝統的な文化を取り上げる。またこの学問研究に欠かせないものにフィールドワークがある。具体的には男鹿半島に伝わるナマハゲ行事や秋田の獅子舞行事を事例にして考える。				
授業計画					
第1回	講義の概要についての説明。				
第2回	文化人類学の世界—どのような学問だろうか（未開民族の文化を取り上げる）。				
第3回	日本の文化人類学の歩み—研究の歴史を考える。				
第4回	文化人類学と民族学の関連について考える。				
第5回	男鹿半島に伝わるナマハゲ文化について（1）その概要と研究方法について。				
第6回	男鹿半島に伝わるナマハゲ文化について（2）フィールドワークについて。				
第7回	世界文化遺産とユネスコの無形文化遺産について。				
第8回	マリノフスキーの調査から（1）小さな離島の経済活動について。				
第9回	マリノフスキーの調査から（2）フィールドワークについて。				
第10回	文化の伝播について（1）進化論と伝播論について。				
第11回	文化の伝播について（2）社会伝播論について。				
第12回	超自然の世界（1）—アニミズム、シャーマニズムについて考える。				
第13回	超自然の世界（2）—日本のシャーマニズムについて考える。				
第14回	文化人類学の新しい領域について考える。				
第15回	まとめと振り返りと課題。				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	「文化人類学入門書」（中公新書）を読んでほしい。文化人類学とはどのような学問か概要がわかる。				
履修条件 受講のルール	世界の未開民族の暮らしに関心を持ちまとめる。詳細は授業時に伝える。				
テキスト	必要に応じて資料を配布する。無断欠席をした学生には配布をしない。				
参考文献・資料	『文化人類学入門』中公新書、祖父江孝男、2004年。『文化人類学を学ぶ人のために』世界思想社、米山俊直・谷泰 1997。				
成績評価の方法	① 定期試験（60%）、②小テスト実施（20%）、③レポート（20%）、①②③の総合評価とする。出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納付金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。				
オフィスアワー	月、金曜日（11：30-12：50） *これ以外の場合は事前連絡があると日程調整する。				

成績評価基準	秀 (100～90) 優 (89～80) 良 (79～70) 可 (69～60) 不可 (59～0)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	テレビ番組などで世界の民族の記録などを見る。